

## 子宮頸がん予防ワクチン

2010.02.04

年があけ、函館地方の1月はインフルエンザの再流行もなく、とても落ち着いた月でした。2月に入り、新型と思われるインフルエンザが徐々に増えてきており、注意が必要です。

昨年12月に子宮頸がんを予防するワクチン（商品名 サーバリックス）が発売されました。子宮頸がんは小児科とは縁遠いものですが、日本では年間に1万5000人が子宮頸がんと診断され、1日に7人の割合で（年間約3500人）死亡している女性にとっては関心をもって接していただきたい病気のひとつです。子宮頸がんの発症に深く関わっているといわれているのが、ヒトパピローマウイルスと言われる病原体です。このウイルスは性交渉などで感染するといわれています。感染したすべての方ががんを発症するわけではありませんが、ごく一部の感染が長引くタイプの方ががん発症に至っているといわれています。

このワクチンは、ヒトパピローマウイルス16、18型に対する抗体を作り、仮に感染が起きたとしても、他のワクチンと同様にウイルスを排除して、子宮頸がんを発症するリスクを抑えてくれます。

接種は10歳から始まり、日本では年齢の上限が設定されていませんが、諸外国では26歳程度までを費用対効果の面から、早期に勧奨する年齢として設定しているところが多いようです。接種方法は日本での従来のワクチンと違い筋肉内注射となります。初回、1ヶ月後、6ヶ月後の計3回行うことが必要です。費用は1回1万5000円から2万円程度に設定しているところが多いようです。高価なワクチンですが、子宮頸がんのリスクを軽減することができるものですので、女の子を持つご両親はぜひご検討ください。ご婦人の方は、子宮頸がん検診とあわせて行うといいでしょう。

主な副作用は、筋注ですので局所の痛みや腫れです。痛みや腫れは我慢できる程度のもので、痛みが弱いお子さんは鎮痛剤などの対応で克服できます。

なお、ヒトパピローマウイルスに起因しない子宮頸がんは予防出来ませんし、適切な年齢での子宮頸がん検診を必要としないということではありませんので、ご留意ください。